

「新しい総合計画（素案）に関する説明会」結果

市町村名	名張市	開催場所	美旗市民センター
開催日	9月30日（火）	開催時間	19：30～21：15 （1時間45分）
参加者数	約43名		
説明者	名張市長、秘書室長 企画財政政策室長 総合企画室長 他	【備考】	

1．開会（司会）【19：30】

2．あいさつ

・ 地区代表区長幹事

・ 市長【19：34～19：49】

3．出席者紹介（司会）

4．事項

・ 総合計画素案の概要説明（山口室長）【19：49～20：17】

・ 質疑【20：17～21：15】

Q（参加者）少子高齢化のことが書かれているが、南西原区では敬老会の該当者が昨年37人、今年42人で12%増加しているが、出産は1人もいない現状である。

そこで、出産奨励金を出してはどうか？

A（市長）少子高齢社会への対応については、総合計画の中ですべてにまたがって、その理念を盛り込んでいます。出産奨励金については3,300の自治体のうち、1,000ぐらいの市町村が実施しています。伊賀管内でも、島ヶ原村・大山田村が実施をしています。その多くは、第3子から30万円を支給というのが一般的です。しかしながら、厚生労働省の調査では、出産奨励金を実施しても出生率はあまり上がらないようです。

名張市は、産んで育てるのに良い環境づくりをしていこうと考えています。名張市では、年間に700人ぐらいの出産がありますが、産むということに関して大きな課題を抱えることになりました。現在、3院ある産科が10月から2院となり、ベッド数は23ベッドに減ってしまいます。6月議会、9月議会において、市立病院に産婦人科を設けるように強い要望・要請をいただきましたので、現在、勉強しているところです。

国の医療審議会は、病床数を10%減らすように言っていますので、病床数を上げることはできません。医療訴訟の40%が産婦人科ということで、産科医師の数も少ないのが現状です。

乳幼児の医療費の無料化については、これまで3歳まででしたが、今年9月からは4歳まで無料としました。これについては、段階的に上げていく考えです。

待機児童の問題については、毎年4月1日には保育所の改造等によって、待機児童

0人としていたのですが、いつも20~30人であったところ、今年は70~80人となっています。待機児童を0人とするために、幼稚園を借りるなどして、充実させたいと思っています。

当然、高齢者の方が生きがいを持って、生活できるそういった施策も充実させていきたいと思っています。

Q(参加者) 私は80歳で区長になり、今年で3年目になります。私は、600万円しか年金を掛けていないのに、これまでに6,900万円の年金を受給している。年金受給者が区長となり、区長の報酬をカットしてはどうか？

A(市長) 区長制度については、これまで自治推進の先導役を果していただいた訳ですが、住宅地の自治会制度・地域づくり委員会との役割分担を見極めて、今後、検討したいと思っています。

Q(参加者) 硬直化した財政を総合計画の中で、どう解決していくのか？地域に仕事を移譲することで解決するのか？美旗地区では、集落排水のことが一番問題である。あと30年も待たないといけないというのでは大変な問題である。なぜ財政が硬直したのか理解できないので、具体的に示して欲しい。

A(市長) (新しい総合計画には) 中期財政の見通しは、きちっと載せます。なぜ、こうなったかについては、他の自治体が人口・税収ともに減少しているときに、名張市は伸びつづけていたということで、かなり強気の行政運営をしてきたからだと思います。今となっては、甲斐性以上のことをしていたということになりますが、なかなかその部分は読みにくい部分だった訳です。急激に人口が増えたので、同世代の人が多く、その2世代が市外へ出てしまうことから急激な高齢化を迎えることとなります。これは新興住宅地を抱える自治体の宿命です。

3万人の人口が8万5千人になって、そのおかげで、それなりの社会資本整備を行うことができました。病院を持つこともできましたし、大学も誘致することもできました。

色々なしくみを創り、役割分担を考えて、民間や地域でできることは、民間や地域に移譲して、それ以外を公が実施するべきだと思っています。このままの自治体運営では破綻することが見えています。財政計画はきちっと表したいと思っています。

社会的弱者が福祉の消費者であるだけでなく、福祉の生産者にもなれるしくみづくりをしたいと考えています。例えば、高齢者は子育ての達人なわけですから...、そんな考え方で、地域福祉計画でしくみづくりをしていきたいと考えています。

A(企画財政政策室長) 今後の財政見通しについてですが、昨年9月18日に財政非常事態宣言を行い、平成15年と16年を財政緊急化対策を講ずる期間と位置づけました。行財政改革に鋭意取り組んでいるところです。平成15年、16年で、とりあえず非常事態を脱却したいと考えています。ただ、平成17年から手放しで喜べるのかということですが、全国的に厳しい状況なので、人口急増期のような状態に戻ることはできませんが、2年間の緊急措置を講ずることによって、現在4%しかない政策的余力を5%、6%と上げていきたいと考えています。

Q（参加者）リーディングプランに書かれている「地域通貨制度」とは何か？

A（市長）お互いに支えあう地域社会のツールであり、時間貯蓄による方法や通貨による方法があります。例えば、子育ての奉仕活動を2時間したら、市内だけで通用する通貨をもらいます。もらった通貨で、病院に行くときは車に乗せてもらうことができるという制度で、時間の貯蓄制度もありますので、どちらが良いかは、今後、検討したいと思います。

現在、コミュニティバスを検討していますが、来年モデル的に1地区実施したいと考えていますが、バスになるのかタクシーになるのかは地域によって異なりますが、それにも地域通貨を利用できればと思います。

Q（参加者）そのような制度は、TVで観たことがある。

A（総合企画室長）大津市の「オウミ（通貨単位）」は、全国的に有名な地域通貨です。アメリカでは、通常の通貨と同じように流通している地域通貨も存在します。

Q（参加者）問題は人間の価値観にあると思う。第一線で働いている者にとれば、高嶺の花で、あまりにも美化されている。美旗地区は、団地と共生していくということでは最も有効な文面であろうと思う。

上小波田の土地利用について、美旗というと国道165号線と優良農地と書かれています。上小波田は確かに優良農地の一辺にあります。個々の経営状況からすれば南古山よりもやや小さい面積です。減反により、実質は5反に満たない状況です。農地を守るという土地利用なら、それに対する農政の対応や市の農林政策に反映するべきではないか？地区からすれば、そういった対応はどうかという気がします。

市街地が虫喰い状に広がることを懸念する気持ちは理解できるが、後継者がいないので、市が呼びかけて農地を耕作する人材を育成して欲しい。

転用できないならできないで、零細農家をどういう方向で導いて行くか一考してもらいたい。

A（市長）総合計画は進むべき方向を定めたもので、これまでのように総花的な計画ではなく、あれかこれかの選択になります。限られた財源をどう使うかの選択なので、ご理解をいただきたいと思います。

美旗地区は名張市の大穀倉地帯であり、ほ場整備された優良農地が広がっていますが、後継者難や不採算で農地を守るのは至難です。地元から有効活用する提案をいただきましたが、広大な農地が無くなれば、広域農道や農業集落排水の事業推進できないという県の考えがありました。

作る人がいなくて、10何町歩の農地が荒れるのであれば、地元の意見を反映するべきだと考えて、私も努力しました。今後は、株式会社を設立して、管理をするのもひとつの方法ですが、もうひとつ地産地消の活動を活発にして、地元小学校の学校給食に地元産の食材を使用するという方法が考えられます。市立病院や錦生小学校では、給食に地元産の野菜が使われています。学校給食のお米はすべて、「伊賀米コシヒカリ」

とさせていただきます。

また、都市住民との交流として、借り手と貸し手がいれば、市は仲人役をしますので、勉強させて下さい。

Q（参加者）計画を実施するためには、住民の意識改革が必要である。それができないと、地域予算も地域福祉も実現しないので、その方策を計画に盛り込むべきである。

A（市長）補助金によって、住民の満足度を上げるのは限界が来ている。資源ごみ回収の補助金のように、政策誘導型の補助金では効果が上がらない。

地域交付金は、地域で優先順位を決めて、自己責任でやってもらうので、市は活動をサポートすることになります。

市全域を活動のエリアとする団体については、市民活動支援センターを設立して、そこでサポートします。

Q（参加者）自分の仕事はしっかりとやって、公民館等の仕事はやらないという人もいる。市長の考え方に、ついてこれない住民もいるので、住民レベルで盛り上げるような方法を考えなければならない。

A（市長）まずは市役所からと思っています。実は、庁舎周辺の草刈りはこれまでシルバー人材センターに委託していましたが、今年になって2つのボランティア団体から申し入れをいただきました。しかしながら、職員が何もしない訳にはいきませんので、職員自らで除草作業を実施した次第です。今後、年3回くらい実施するつもりです。

Q（参加者）ボランティアで事故等の方が一の場合に、保険を掛けるとかできないのか？

A（市長）年間20円くらいのボランティア保険があったと思いますので、勉強します。

Q（参加者）将来、あまり年金をもらえない立場で発言します。最近、大学生を除く18歳の若者のほとんどがフリーターである。就職先がないのか、財政基盤がへこんでいってしまう。労働力を外国人に頼るとか、生産を海外の工場へ移すといったになると思うが、若者が定住できる施策を講じるべきである。

A（市長）年金の問題についてですが、年金は掛け金制ではなく、賦課制であることから、支える人が減ると会計が破綻してしまいます。この問題を解消するには、賦課制を掛け金制に変更するべきですが、それには500兆円の費用が必要であると試算されているので、至難の業である。どこかで切り返さないと厳しい状況です。

労働力の問題については、アメリカや他のアジア諸国のように、多民族化するのが手取り早くて良い。あるいは、北欧のように男女共同参画社会を推進して女性の社会進出を促進するしかありません。

働く場所については、名阪国道沿いの土地の方が安いので、生産工場を誘致するのは至難の業です。暮らしやすさを追求するには、福祉・医療・保健・教育・情報という分野が重要であり、そこで雇用の拡大が図られると考えています。

特別養護老人ホーム1つで50人の雇用を創出できますので、その分野への特化が必要と考えます。

以前、大阪へ通勤していた人は1万人いましたが、現在は8千5百人になっています。また、伊賀管内（上野市とか伊賀町）に通勤する人は、4千人から6千3百人に増えています。つまり、上野市や伊賀町で働いても、「住む」のは名張という方がたくさんいるということです。

大型の商業施設は、津市よりも名張市の多くなっています。

（市長）県会議員当事の課題となっていたことについて、ご報告をさせていただきます。

ふるさと農道は、すずらん台～小波田～新田を通して、旧の上野名張線タッチしますが、左へ行くと美旗駅・右へ行くと伊賀神戸駅へ降りる箇所がちょっと遅れていましたが、大体出来てきました。ただ、入口のところだけは、まだ解決していません。今年は6千5百万円くらい付けてもらっています。

美旗駅前の細い道については、地元の協力をいただけるのであれば、来年度から調査費をしてもらうつもりです。

新田の交差点改良については、事業採択は厳しいですが、強く要請して早く実現したいと考えています。国の地方改善の事業に乗せていきたいと考えています。駐在所は市の用地ですので、あそこにポンプ庫や火見櫓を持ってきてはどうかと思っています。

5．閉会

パブリックコメントで、ご意見をお寄せいただきまようによろしく申し上げます。（司会）